

KG かながわ第 16 回ミニ講演会 報告

日 時：2021 年 9 月 4 日（土）10 時～11 時 30 分

場 所：ZOOM リモート

参加者：講演会 39 名（1961～1983 卒）（内、他支部 2 名、講師友人 3 名、女性 8 名）

講 師：小野博也（1966・文学部美学科卒）

テーマ：「I V Y スピリッツと共に!!

～日本の最先端を走り続けたファッション業界の雄、VAN が生んだ文化について」



開催までの準備：

本年 3 月に続いて全面リモートでの開催となりました。前回同様に ZOOM 初心者のための事前テスト設け、3 名の方が参加され、当日は無事入室聴講されました。また講師と各担当者、全員がリモートのため、2 度のリハーサルを行い、当日に備えました。

入室から開会まで（9:40～10:10）

講演開始予定時間の 20 分前から開場（＝ZOOM 入室）。受付担当は井村事務局長。この間、BGM で画面に“A song for Kwanseï”が流され、定刻 10 時に田中敏恵幹事の司会で開会となりました。佐藤支部長から「神奈川を楽しむ会」での講師との出逢いがきっかけとなったと挨拶があり、IVY 定番のプレザー、ボタンダウンシャツ、レジメンタルタイで決めた講師が登壇。パワーポイントで作成した資料が「共有画面」に映され、講演が始まりました（パワーポイント操作は佐藤支部長）。

講演（10:10～11:00）

（1）京都の時代（高校生）自己紹介

夙川で生まれ、幼稚園受験。京都に移り高校は京大狙いの進学校で剣道部に所属、悪ガキだったが、今も当時の仲間 8 人とは交流を続けている。また当時、京都で教鞭をとっていたロス先生に英語を教えてもらっていた。

（2）KG 時代

美学科は大学でしか学べない分野ということで志望した。ロス先生が関学に移り、上ヶ原の外人住宅に住まわれており、下宿生は入れないことになっていたが、京都時代の縁で特別に下宿させてもらうことになった。米国では家庭教師はボランティアであり、アルバイトは専ら肉体労働で、芝刈り・朝食準備・皿洗い等。時給が高く、他の住宅向けに学生を募集して好評だった。



また関学を志望したもう一つの目的であったアメフトに入部。新人戦にも出場したが、ロス先生から下宿（学業）かクラブか、と迫られ、4 年間で外人住宅で過ごせる機会は今しかないと決断してアメフトを泣く泣く退部した。

（3）VAN 時代

①年表による時代の総括（年表は末尾に記載）

VAN（1951 創業～1978 倒産）は、その 27 年間で戦後日本の若者ファッションをリードした。

②VAN 入社

卒業後、他のファッション会社に就職して、コシノジュンコと対談、当時作業着であったジーンズのファッション化を企画。石津謙介ともこの時に出逢い、それが縁で入社試験を受けた。彼女（現・夫人）同伴で試験を受け、あきれかえられたが無事入社。大阪で KENT ブランドの営業に配属（以降、営業一筋）。

③VANGARD'S

入社してすぐに VANGARD'S を創部。母校関学との試合やハワイ遠征を敢行（※）。また、関学 OB チーム（35 歳以上）にも入れてもらい、横須賀米軍との試合にも出た。ベトナム戦争時で本場プロ選手も入隊しており、正直怖かった（笑）。



（※）ハワイ遠征の話は時間の関係で割愛されたので、講演後の講師の話しを記載します。

- ・飛行機代等は自前であったが、現地に着いたら全て出張扱いのサプライズで全員大喜び！
- ・試合は 3-50 の大敗（当時のハワイ大は全米カレッジでも 10 位内の実力校）
- ・パーティーは社長命で全員お揃いのブレザーとスラックス。相手校もお揃いのアロハとパンツ（これが正装）。
- ・骨折した主将はアルコールを控えていた。テーブル毎の乾杯で社長がやってきて無理矢理グラスを手渡しされ、飲んだら、満足顔で次のテーブルに移って行った。グラスの中身は水だった。

（４）IVY ファッションとは？

①米国 IVY リーグ（東海岸 8 大学）の学生ファッションを日本に持ち込んだ。

②IVY アイテム（抜粋）

ブレザーは赤色がフォーマル（乗馬服）。インディアン・マドラスは色落ちが良い。クルーネックはヨット（風よけ）から。ダッフルコートの起源は漁師の作業着と英国海軍の軍服の両説あり。ビジネスシューズは底が厚くて頑丈（ニューヨーカーは歩く）。レジメンタルタイの縞模様は右下がり基本だが日本では元を担いで一時右下がり etc.

③VAN の企業文化

- ・「ファッションとは文化であり、流行は蔓延して文化を生む」を実践した。
- ・“for the young and the young-at-heart” のキャッチコピーで時代をリード。
- ・青山 VAN タウン（1960 年～）は IVY ファッションの起点となり、社員は遊びの感覚で休日も集まった。



（５）石津謙介氏のこと

①財界交流

松下幸之助・・・ナショナル自転車とタイヤアップ（販促の景品に）

本田宗一郎・・・初代 CIVIC のお披露目は青山 VAN 通り（246 号線）

井深大・・・銀座ソニービルのこけら落としに VAN ファッションショー

②ファッション・スポーツ界交流

三宅一生、ファイティング原田、生沢徹、式場壮吉、ミッキーカーチス、マイク真木、なべおさみ、布施明、森進一 etc. 好きな服を自由に持っていかせた。

③言行録と逸話

- ・全ての節約が種々なるアイデアを生む（消費者に還元）
- ・知らないこと判らないことは遠慮なく聞け（社長自ら社員を捕まえて、カウス袖周りの MLS サイズを質問）
- ・御堂筋の表通りに銀行は要らない（喫茶やファッション店舗こそ相応しい）
- ・貿易摩擦で繊維業界を代表して渡米。交渉は一切英語を使わず（買ってほしい米国こそ日本語を話すべし）

④今も続くOB会。VANは「会社」という枠ではとらえられない「遊びの場」だった。

(6) 終わりに

皆さんこれからも“the young-at-heart”で過ごしましょう！

休憩 (5分)

質疑と感想 (11:05~11:25)

60年代・70年代にIVYファッションを共有したVANファンから当時の雑誌や思い出話が紹介され、講師と話が弾みました。講師の今も変わらぬVAN愛と石津謙介氏へのリスペクトを強く感じられた一コマでした。

集合写真 (スクリーンショット) と事務連絡 (今後の行事予定)

井村事務局長

校歌「空の翼 (1~3番)」 静聴・・・山田耕祐独唱の録音盤より

講演終了 (11:35)

【佐藤・記】

3-1. VAN時代(年表)



講師	VAN	年	KG	日本社会
	1911 石津謙介生誕(岡山市)	1900		1914第一次世界大戦勃発
1941誕生(夙川)		1940	1945授業再開 1948新制大学・高等部開設	1940米英に宣戦布告 1945終戦
	1951VAN創業(大阪) 1954VANブランド登場	1950	1951商学部開設	1950朝鮮戦争勃発 1953テレビ放送開始
1966文学部卒業 1967VANへ転職	1964青山に本社移転 (みゆき族登場) 1967VANGARD'S創部	1960	1960社会学部開設 1961理学部開設 1968ハ'ガード'封鎖	1964東京オリンピック 1965t'トルズ'初来日
1977VAN退社	1978VAN倒産(27年間) VANGARD'S廃部	1970		1970大阪万博 1972浅間山山荘事件 沖縄本土復帰 1978成田空港開設
		1980	1989創立100周年	1989昭和天皇崩御
		1990		1995阪神淡路大震災
	2005石津謙介逝去(94歳)	2000	2002アマガ日本一に	

